

## 追悼のことば

谷田貝三郎先生がなくなられてからはや四年になります。いまでも研究室に行つて先生にお会いしたいようななつかしさを覚えることがあるのは、先生のあの温厚なお人柄を身近なものとして感じていたからでしょう。私たちは先生のもの静かなお姿と笑顔とをいつでも鮮かに思い浮かべることができません。

この歳月の過ぎる間に学内では激しい流動状態が続きました。そのために、先生がなくなられた後すぐに計画されていた追悼号刊行の企ても、心ならずも延び延びにならざるを得ませんでした。それがいま実現されたことは私たちにとつての大きな喜びです。

先生が学校に最後においでになった日に、私はたまたま研究室で先生にお目にかかる機会を得ました。その時先生は「これからの法学部のことをみなさんでよろしくお願いしますよ」と言われましたが、いまになってその言葉の重さを噛みしめるとともに、先生が法学部のために担われたご苦勞をあらためて偲んでいる次第です。

いまこの追悼号を先生のご霊前にささげるに当たり、教育・研究をはじめすべての分野で、先生の残された言葉に添うべく皆さんとともに力を尽くすことをお誓いしたいと思います。

昭和四十七年十一月

法学部長 高橋 悠